

## トルコ・リラは最安値を更新(2018年5月)

～S&Pの格下げ以降、トルコ・リラは続落～

2018年5月8日

### お伝えしたいポイント

- ・ S&Pがトルコの格付けを引き下げ、トルコ・リラは下落
- ・ インフレ率の上昇や「バラマキ」的な経済政策の発表もトルコ・リラ安の材料に
- ・ 長期的には経常赤字体質の改善が求められる

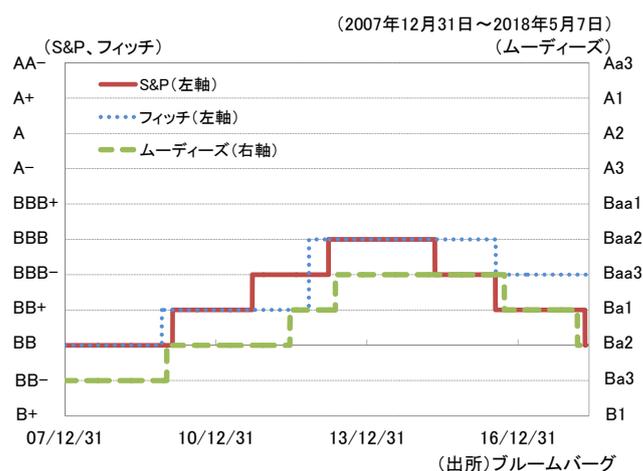
### <S&Pがトルコの格付けを引き下げ、トルコ・リラは下落>

5月1日(現地、以下同様)、格付会社のS&Pグローバル・レーティング(以下、S&P)は、トルコの自国通貨建ての長期債務格付けを「BB+」から「BB」に、外貨建ての長期債務格付けを「BB」から「BB-」に、それぞれ1段階ずつ引き下げました。格付けの見通しは「安定的」としています。

S&Pはトルコ経済の不均衡が拡大していることを格下げの理由としています。より具体的には、経常赤字や財政赤字の悪化、現在高い水準にあるインフレ率の見通しが悪化したこと、トルコ・リラの不安定性、民間部門が苦境に陥る兆候が現れ始めていることなどが格下げの理由として挙げられました。

3月には格付会社のムーディーズ・インベスターズ・サービス(以下、ムーディーズ)がS&Pに先んじてトルコの格付けを「Ba2」に引き下げていたため、今回のS&Pの格下げは大きなサプライズではありませんでした。しかし、S&Pの格下げ以降、トルコ・リラの下落が続いており、トルコ・リラは対米ドルで最安値を更新しています。

### 《格付け(自国通貨建て)の推移》



### 《為替の推移》



※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <インフレ率の上昇や「バラマキ」的な経済政策の発表もトルコ・リラ安の材料に>

トルコ・リラの下落の背景には、トルコのインフレ率が上昇したことや 6 月に実施される総選挙を前にトルコ政府から「バラマキ」的な色彩が強い経済政策が発表されたこともあるとみてます。

トルコの高インフレ体質に改善が見られなかったことや、総選挙を前にして一段とトルコ経済の不均衡を助長するような政策が打ち出されたことで、あらためてトルコ経済のぜい弱性に市場の目が向き、トルコ・リラの下落につながったものと考えられます。

### 《CPI(消費者物価指数)上昇率の推移》



## <長期的には経常赤字体質の改善が求められる>

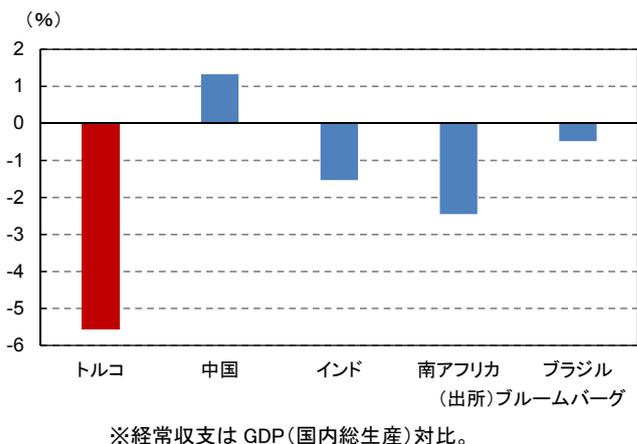
今後を考える上で短期的には、エルドアン大統領が利上げ反対を公言している中で、4 月にトルコ中央銀行が利上げに踏み切り、通貨防衛姿勢を明確に示していることが、トルコ・リラの下支え要因になるとみています。通貨安が進む中では、トルコ中央銀行が追加利上げに動くこともあると考えられます。

長期的な視点では、トルコ・リラの安定のためにはトルコの経常赤字体質の改善が求められます。5 月 6 日には、エルドアン大統領が選挙後に高いインフレ率や経常赤字を改善することを約束するとの旨の発言をしており、こうした大統領の発言が実行に移されていけば、トルコ経済にとってプラスの材料だと言えます。

ただし、選挙後の政策の行方に関する発言次第では、経常赤字への懸念が払拭されない可能性もあり、今後の状況を注視していく必要があるとみています。

以上

### 《主要新興国の経常収支の比較(2017年)》



## <ご参考> 当社の関連リサーチ

### ◇マーケットレター

- ・トルコ金融政策(2018年4月)～短期的には中央銀行の利上げによる通貨防衛姿勢がトルコ・リラを下支え～(2018/4/26)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20180426\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20180426_1.html)
- ・トルコ・リラは一時最安値を更新(2018年4月)～目先は金融引き締め、長期的には経常赤字体質の改善が求められる～(2018/4/16)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20180416\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20180416_1.html)
- ・ムーディーズによるトルコの格下げについて(2018/3/9)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20180309\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20180309_1.html)
- ・トルコ金融政策(2017年12月)～トルコ中央銀行は利上げにより通貨防衛姿勢を示す～(2017/12/15)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20171215\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20171215_2.html)
- ・最近のトルコの為替・金利動向と今後の見通し(2017年11月)(2017/11/28)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20171128\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20171128_1.html)
- ・トルコと米国のビザ発給業務停止に関する報道を受けて(2017/10/10)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20171010\\_1.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20171010_1.html)
- ・トルコの最近の状況について(2017/10/5)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20171005\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20171005_2.html)
- ・トルコ4月金融政策委員会～中央銀行はインフレ見通しの悪化を懸念～(2017/4/27)  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20170427\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20170427_2.html)

### ◇Weekly Report

- ・トルコの金融市場動向(毎週更新)  
<http://www.daiwa-am.co.jp/market/weeklyreport.php?type=7>

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>